

## 道路上の吐き捨てガム清掃

NPO法人環境まちづくりネット 野原満夫

歩道に点々とある黒いシミ、それはガムの噛みかすである。顔のシミやソバカスを整形手術で取り除くように、齢78の老人である私は、吐き捨てられたガムの噛みかすを取り除く清掃活動に、志を同じくする仲間と一緒に汗を流し、ガムを吐き捨てるような不心得な人たちが居なくなる日を願っているのである。

ガム取り清掃など馬鹿バカしいことだと思われるかもしれないが、幼いときに躰けられた習慣は、そうやすやすと治るものではない。愚老が小学校へ通っていた当時は戦時中で、最初の頃は、学校農園を造るため山の雑木林を開墾し、そこへ学校便所で人糞を桶に汲み取り、2人1組で、しゃぼんしゃぼん、ぼちゃんぼちゃんの音と臭気に戸惑いながら担ぎ揚げて撒くという作業でしたが、そのうち軍隊や軍需工場に徴用された先輩たちに代わって銃後の守りと云う事で、出征兵士の居る農家へ手伝いに行くやら、運送会社の手伝いをするやら、勉強する時間は少なかった。旧制農学校の受験に失敗して高等科へ進んでも同じ、軍需工場で旋盤を操作するやら、トロッコに鉱石や石炭を積込み、それを工場へ運ぶ作業に明け暮れていたのである。

それだけではない。地域での奉仕活動と云うのがあって、町内清掃や神社の境内清掃、夜回りやら廃品回収なども盛んであった。

こんな時代に育った愚老であるため、ガム取り清掃なんてお茶の子さいさい。しかも、腰を痛めずに作業が出来る「ガム取り棒」と、吐き捨てガムを取りやすくし、尚且つ除菌作用を持つ溶液「ガム取り一番」を使つての作業なので、安心して2時間や3時間くらいなら休みなく出来るのである。

今の世の中どうなっているんだろう。不景気になって仕事がなく、収入が無くなり生活保護を受けなければ生きて行けないと云う人が増えて、地方自治体の生活保護費に要する歳費が急増し、自治体は借財を返済するどころかますます増加の傾向にあると云うのである。そしてまた、ガムを噛みながら歩き回り、ぽいっと吐き捨てて知らん顔。日本の文化の特徴の一つに“恥を知る”と云うのがあったが“旅の恥はかき捨て”と云う悪しき風習が日常化したと云うことである。

「働かざる者 喰うべからず」などときつい事を言うわけではないが、真面目に働いている人達の汗の結晶たる税金を、怠け者のために使われているようでは、納税者としては不満であるし、税金を納めるのが馬鹿らしくなるのである。

仕事にあぶれている人たちに、ガム取り清掃などの「まち美化清掃」と云う就労の機会を与えることによって、生活保護費と云う名の費用が減額されるようになれば、納税者にも納得して頂けるのではないであろうか。また、不幸にして路上生活を余儀なくされている人たちの救済処置としても、活用出来る仕事であると思うがゆえに、為政者の勇氣ある御判断を仰ぎたいものである。

平成22年5月22日